

令和5年度 県立置賜農業高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

学校教育目標	1 心身ともに健康な、「元気」「活力」「勢い」を創り出す人間を育成する。
	2 豊かな教養と主体的な学習習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。
	3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。
	4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。
めざす生徒像	1 健康で自信に溢れ、何事にも主体的に励もうとする生徒。
	2 生命を慈しみ、他者の存在を尊重する協調性を持ち、多様な価値観を受け入れられる生徒。
	3 豊富な知識や技術を持ち、農業の担い手など幅広い分野での活躍を目指す生徒。
	4 社会貢献意欲が高く、豊かな地域づくりに向けて進んで実践奉仕する生徒。

具体的目標	1 「いのちの教育」の推進
	2 「学び」の充実
	3 「進路指導」の充実
	4 「地域との協働による教育」の充実

達成度	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分
	D 不十分

自己評価				
番号	評価項目	重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標等	達成度
1	「いのちの教育」の推進	① 多様な価値観を受け入れるしなやかな感性の育成。 ア 自尊・他尊感情を育む取組を強化する。 イ いじめ〇(ゼロ)を目指し、いじめの防止や早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ウ 自主性・主体性を育む生徒会活動や農業クラブ活動を推進する。	ア 良好な人間関係づくり(保健講話) イ 生徒理解の充実(スクールカウンセリング、生徒理解研修会、各種調査) ウ リーダー講習会の実施(生徒会役員、農業クラブ役員) ◇全校出席率99% ◇いじめ解消率100%	A
		② 社会を健全に生き抜くための規範意識の醸成。 ア 集団生活の中で社会のルールやマナーの大切さを学び、規範意識を育てる。 イ ネット社会における情報モラルの育成とトラブルの未然防止に組織的に取り組む。	ア 法令遵守の徹底(交通安全講話、各種法令に係る学習指導) イ SNS活用指導の徹底(情報モラル講話) ◇自転車通学に係る違反「イエロー切符」年10件以内 ◇SNS関連トラブル0件	
		③ 心身の健康維持増進に向けた積極的な態度の育成。 ア 健康教育等を通して基本的な生活習慣を確立させる。 イ 新型コロナウイルス感染予防、拡大防止に向けた生活指導、保健指導に組織的に取り組む。 ウ 教育相談を充実させ、個別最適に支援できる体制を確立する。 エ 特別支援教育の視点からの指導・対応について教員間で情報共有を図る。	ア 肥満傾向低減に向けた保健指導の推進(食育に係る授業、保健講話) イ 衛生管理の徹底(日々の健康観察、保健だより) ウ 校内研修の実施(各種面談、生徒理解研修会) エ 定期的な情報共有(達指導委員会) ◇「保健指導」充実度85% ◇「教育相談」充実度85% ◇「特別支援教育」充実度85%	
2	「学び」の充実	① 学ぶ意義が可視化され、生徒が主体的に参加する授業の実践。 ア 生きる力の源となる学力の基礎・基本を定着させる。 イ 生徒の興味関心を喚起し、学びに向かう態度を育成する。	ア 基礎力強化教材の活用(観点別評価の充実、授業評価) イ 観点別評価の充実(評価に係る研修会、評価法の研究開発) ◇「学習支援」充実度85%	B
		② ICTの適切かつ効率的な活用と個別最適な学びの研究。 ア 農業の知識、技術等の学びを通し、高い志を持つ担い手を育成する。 イ 教育の情報化に対応し、授業改善やオンライン授業を積極的に推進する。	ア 地域課題解決型プロジェクト学習の推進(校内大会、教員の研究活動) ア 新技術・情報の積極的活用(ICT、AIなどスマート農業に関する授業) イ 一人一台端末の活用(授業改善、家庭学習支援) ◇「農業に係る学習」充実度85%	
		③ 実効的な対話機会を組み入れた学習活動の創造。 ア 読書活動を充実させ、豊かな心の育成を図る。 イ 学際横断的な探究型学習、主体的・対話的で深い学びを推進する。	ア 読書活動の推進(全校読書デー、図書委員会) イ コンテンツベースの教科横断的アプローチ(課題研究、教科横断的な授業) イ アクティブラーニングの実践(主体的・対話的、深い学びに向けた授業改善) ◇「プロジェクト学習」充実度85% ◇「教科横断的な学習」充実度85%	
3	「進路指導」の充実	① 高校での学びを生かせる、より適切な進路の検討と開拓。 ア 主権者意識を醸成し、地域や社会に関心を持たせる指導を推進する。 イ 地域活動への参画等を通して地域の魅力や課題の発見につなげる。	ア 社会情勢への関心向上(学級1新聞、主権者意識醸成講座) イ 地域貢献活動の推進(LHR活動の活用、全校一斉ボランティア) ◇「地域に根ざした農業教育」充実度85%	A
		② 生徒の進路意識を段階的に高める計画的な指導の確立。 ア 学校を取り巻くネットワークを構築し、拡大・充実させる。 イ 計画的、組織的、系統的な進路指導を実践する。	ア 町・小中学校・NPO・先輩・企業等と連携(連携事業、町報の活用) イ 進路活動の充実(インターンシップ、キャリアパスポート) ◇「地域連携」充実度85% ◇「進路指導」満足度85%	
		③ 地域や産業界との連携を強化した望ましい勤労観と職業観の醸成。 ア 教育実践や研究の成果を積極的に還元する。 イ 学校の取組を積極的に発信する。	ア 機関紙等の充実(農業クラブ機関紙「萌芽」) イ 農業教育への理解促進(オープンスクール、学校通信、HP、YouTube) ◇「各種機関紙」充実度85% ◇「置農チャンネル」配信月1回以上	
		④ 生徒のキャリア形成につながる十分な対話の確保。 ア 3年間の進路活動を見据えた丁寧な進路相談を行う。 イ 進学、就職に向けた意欲を喚起する。 ウ 協働的な組織体制を構築するとともに、適切な業務分担を図る。	ア 各種面談の充実(二者面談、三者面談、進路の手引き) イ 資格取得推進(資格に係る情報提供、農業技術検定) ウ 勤務時間と業務内容の管理(在校等時刻調査、部科長主任会) ◇農業技術検定合格率80%以上 ◇複数月平均80時間以上0名	
4	「地域との協働による教育」の充実	① 社会の動向と本校の特色を連動させた持続的連携体制の確立。 ア 関係機関と情報を共有し、生徒が地域への興味関心を高める取組を推進する。 イ 地域参画意欲向上を図るとともに、成人としてのリスク回避教育を充実させる。	ア 高等教育機関や関係機関、NPO等との連携(連携協働による授業、特別活動) イ 消費者教育等の充実(消費者教育、金融教育) ◇「地域理解教育」充実度85%	B
		② 地域交流の拠点となる学校づくり。 ア 生徒会活動等を通して小・中学校との連携を深める。 イ 学校の取組を積極的に発信する。	ア 地域行事への参加(こまつ市出店、置農ファンクラブ) イ 保護者への広報(学年通信、進路便り、さくら連絡網) ◇「地域連携」充実度85% ◇学校見学者300名	

学校関係者評価	
◆意見・▲要望・◎評価等	
◆	悩みの多い生徒に対して、できない自分を悩むより、何ができるか考える教育に舵を切り指導することでやる気のできる生徒に育つのでは。
◆	学校の指導・取り組みは評価されている。併せて、保護者の理解促進、家庭での取り組みも重要と考える。
◆	「いのちの教育」の原点はまず、あいさつ。きちんとしたあいさつを交わすことによって生徒・生徒同士の信頼が生まれ絆が深まり、規範意識も更に深まる。あいさつは社会に出てからも大事な要素である。
▲	これまでの教育効果は数値に表れている。社会での規範意識の醸成に向けて指導をお願いしたい。
◎	農業クラブの活動や農業学習の成績から置農らしい教育がされている。
◎	教育相談等で丁寧な対応がなされていることが、規範意識の高まりにつながっている。
◎	生徒と保護者の各項目の評価が、大きく乖離していない。
◆	基礎学力の充実は、組織的に「学び続ける基盤」に取り組むことが大切であり、全ての教科科目でやれることである。
◆	専門的な学習の中で自分が将来、何をしたいか考える機会にもつながり、自分自身の可能性を広げる機会にもなっていると思う。
▲	重点目標にあるように生徒が主体的・自発的に向き合うよう努めて欲しい。
▲	探究型学習は個々の能力を伸ばす良い方法だと考える。多くの疑問に丁寧に対応をお願いしたい。
◎	プロジェクト学習については専門的な学習の機会が充実し各種大会での評価も高く、科学的思考力等を高めることはもちろん、生徒の自己肯定感を高められる。
◎	学校教育の根幹をなすのは授業であり、農業教育とプロジェクト教育について、ほぼ全生徒が充実していると回答していることは、大変素晴らしい。
◆	農林専門職大学開校に伴い、今後一層農業関係の進学者が増え、農業の担い手となることを期待。
◆	「置農に行って何になれるのか(どこにいけるのか)」に実績を示しながらどう答えられるかが「選ばれた学校」になる基本だと思う。
▲	適期に自分の進路を決めるにはキャリア支援体制が整っていることが必要。自営、就職、進学に対する専門的な指導をお願いしたい。
▲	地域や産業界との連携を強化した望ましい勤労観と職業観の醸成。
▲	高校での学びを生かせる、より適切な進路の検討と開拓が必要と考える。
◎	進路に関わる指導の充実が、職業観の高まりにつながっている。
◎	早期に進路先が決定したのは素晴らしいこと。先生方の早期の情報提供、進路指導の成果だと思う。
◎	昨年より今年度は4年生大学に進む生徒が増えていることはもっと勉強したいという気持ちが増えた証拠で大いに評価できる。
◆	色々な情報誌で置賜農業高校の活動を目にする。置賜農業高校のスキルが産学連携に結び付くことが大きな特徴となるのでは。
▲	普通科の他校よりも地域や関係機関との連携は強化できる。川西町・置賜地域の環境や特色を活かした取り組みを期待する。
◎	地域に根ざした農業教育を展開し、地域からも信頼もあるので、農業高校ならではの取り組み、活動を地域や小中学生との連携を深め、YouTubeでの情報発信を積極的に続けて欲しい。